

# 「豊かな表現活動の出来る子どもの育成」

— 話す・聞く力を育てる環境の工夫 —

浦添市立当山幼稚園教諭

池 間 すえ子

## 目 次

I	テーマ設定理由	1
II	研究の仮説	1
III	研究構想図	2
IV	研究の内容	3
1	幼稚園教育の基本	3
2	幼児期における言葉の教育目標	3
3	言葉について	3
(1)	言葉の教育	3
(2)	言葉の働きと領域「言葉」のねらい、内容の関連	3
4	領域「言葉」の具体的内容	4
(1)	言葉による表現を育てる	4
(2)	聞く力を育てる	5
(3)	考える、想像する力を育てる	5
5	幼児理解	5
(1)	幼児理解のための教師の姿勢	5
(2)	幼児理解の具体的な方法	5
6	環境構成	6
(1)	環境構成の視点	6
(2)	環境構成の配慮や工夫	6
7	言葉の年間指導計画案	7
V	仮説検証の保育実践	9
1	活動名	9
2	題材名	9
3	ねらい	9
4	設定理由	9
5	親子対話状況の実態調査	9
6	室内環境の工夫	11
7	活動の経過	12
8	公開検証保育指導案	16
9	公開検証保育の評価	19
VI	研究の成果と今後の課題	19
1	研究の成果	19
2	今後の課題	20
	おわりに	20
	《参考文献・引用文献》	20

# 「豊かな表現活動のできる子どもの育成」

— 話す・聞く力を育てる環境の工夫 —

## 【要 約】

子どもが豊かな表現活動が出来るように、話す・聞く力を育てる環境の工夫について、言葉の領域、室内環境の工夫、援助のあり方を中心に、表現活動を楽しむ保育実践の研究を進めてきた。その結果、豊かな表現力を育てることは、①教師がゆとりを持ち、子どもの表出や表現を大切に受容したり、共感したりする、②主体的に、遊びが展開できるように環境を整え、快い雰囲気づくりに努めて安心感を持たせること、③子どもと生活を共にする中で、子どもと共に環境を創っていく、等が大切であることが確かめられた。

**キーワード** 言葉のねらいと内容 幼児理解 聞く話す力を育てる環境の工夫

言葉の年間指導計画 豊かな表現活動 親子の対話

## I テーマ設定の理由

言葉は、自分の意思を表現したり、相手の考えていること、思っていることを聞いたりするやりとりである。又、人間として生きていくための基本的な力として獲得していく必要がある。子どもは親や教師、兄弟や友達等の人間関係の中で言葉を学ぶ。又、生活の中で心を動かし、その感動に伴うイメージを伝えたいくなるような体験に出会うと、積極的に言葉で表現していくと思われる。更に子どもの表現を理解し、認めてもらえる人との関わりの中で、ますます自分の思いを伝えたいと思う意欲が高まり、またその意欲は相手の話に耳を傾ける態度にもつながっていくと考える。

本園の子どもの話す・聞くの実態を見ると下記の通りである。

- ・名前を呼ばれても「ハイ」と返事をしない子。
- ・モジモジして思ったことが話せない子。
- ・自分の考えや思いが言葉で表現ができず、すぐに乱暴な態度をとる子。
- ・朝の会や帰りの会、誕生会などで教師や友達の話聞いてない子。

また、これまでの教師の子どもへの関わり方を省みると

- ・子どもの気持ちを受けとめ対応をしていたか。
- ・子どもに分かるように話をしていたか。
- ・子どものイメージを膨らませるような言葉かけを

していたか。

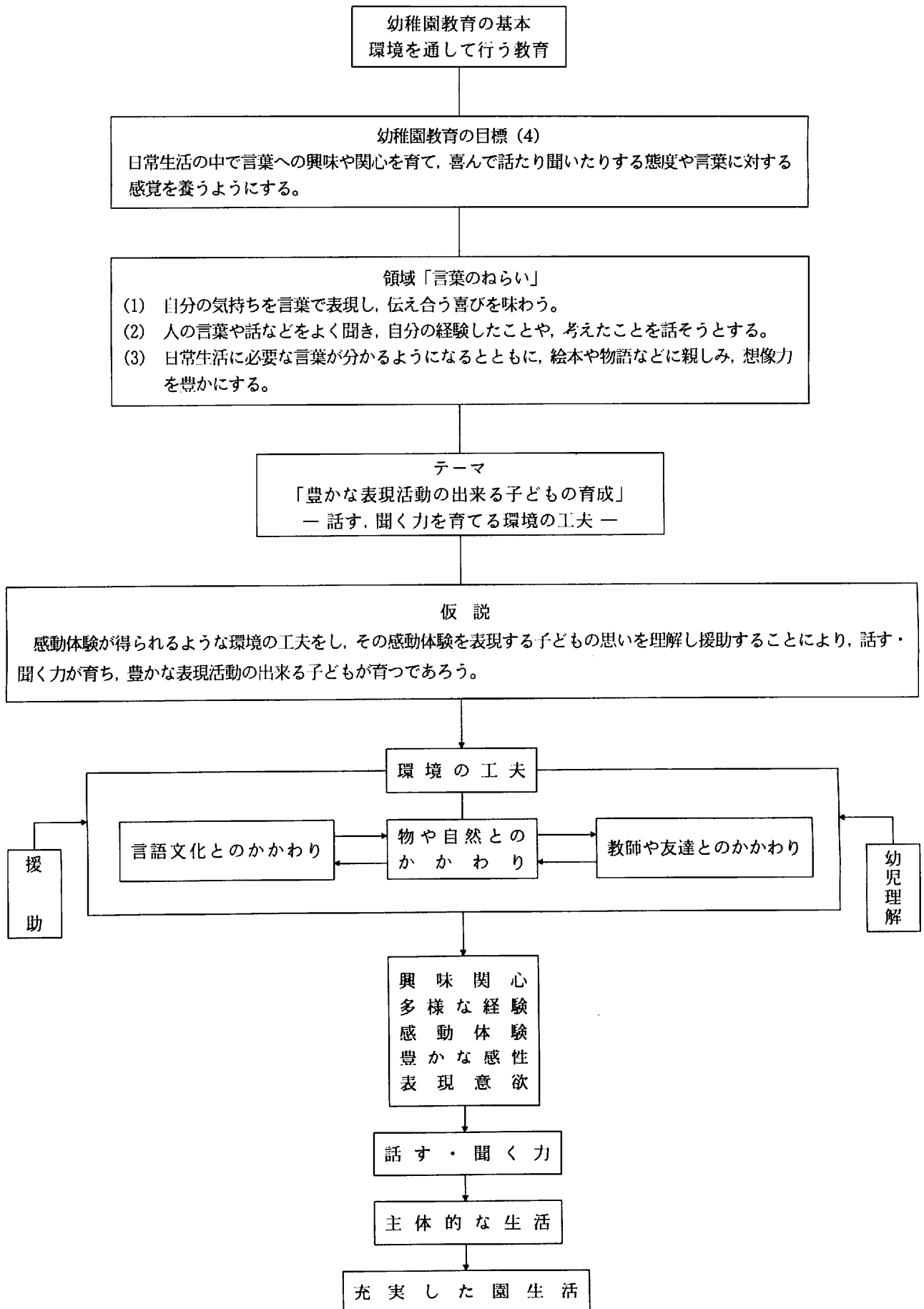
・感動体験が得られるような環境の工夫がなされていたか。

などがある。そこでこの反省を踏まえ、話す・聞く力を育てるための環境の工夫と指導を結びつけて研究したいと思い、本テーマを設定した。

## II 研究の仮説

感動体験が得られるような環境の工夫をし、その感動体験を表現する子どもの思いを理解し援助することにより、話す・聞く力が育ち、豊かな表現活動のできる子どもが育つであろう。

### III 研究構想図



## IV 研究内容

### 1 幼稚園教育の基本

幼稚園教育は、幼児期の発達の特性を踏まえ環境を通して行うものであることが基本である。

特に保育者と幼児との信頼関係を十分に築きながら

- (1) 幼児期にふさわしい生活の展開
- (2) 遊びを通しての総合的指導
- (3) 一人一人の特性に応じた指導を行わなければならないとなっている。

### 2 幼児期における言葉の教育目標

幼稚園教育要領では幼稚園教育の目標として、5つの項目をあげている。

その第4の項目には「日常生活の中で言葉への興味や関心を育て、喜んで話したり聞いたりする態度や言葉に対する感覚を養うようにすること」と言葉の目標を明示している。

「言葉」領域では「経験したことや考えたことなどを話言葉を使って表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚を養う」観点に立ち、幼児の生活にふさわしい経験から育つことを期待する「言葉」に関する心情、意欲、態度などを「ねらい」とし、幼児期における言葉の教育の具体的な目標を次のようにあげている。

- (1) 自分の気持ちを言葉で表現し、伝え合う喜びを味わう。
- (2) 人の言葉や話などをよく聞き自分の経験したことや考えたことを話そうとする。
- (3) 日常生活に必要な言葉が分かるようになるとともに、絵本や物語等に親しみ想像力を豊かにする。

この三つを具体的な目標として幼児期における言葉の教育が実践されることが望ましいとしている。

## 3 言葉について

### (1) 言葉の教育

言葉は「音声又は文字を手段として、思想、感情、意志を表現し、伝達し、また理解する社会共有の記号体系」である。人間以外の動物はこのような社会習慣の一つの体系とも言うべき言葉を持ち得ない。言葉を使うことは、人間を他の動物から分かちもっとも重要な特徴である。言葉の教育とは、子どもの言葉の獲得を助け、支える営みであり、子どもの人間としての成長を促すうえで大きな仕事を担っている。

### (2) 言葉の働きと、領域「言葉」のねらい、内容との関連

言葉の働きには、表す・伝える考える・知る、思い浮かべる・新たに創り出す、などの働きがある。この言葉のもつ働きはすべて領域「言葉」のねらいに含まれている。幼児が「言葉」のねらいを獲得していくことは、人間を人間たらしめている言葉の基本を自ら獲得することであり、それは「人間形成の基礎を培う」ことになる。そのことを幼児期の言葉の教育では明確に認識していかなければならない。

言葉のはたらき、領域「言葉」のねらい、内容の関連図

《言葉の動き》

《ねらい》

《内 容》

\*表す・伝える

言葉により、考えや気持ちを表し、伝え、理解し合うことが出来る。心と心のかけはしとなり、人と人との間に信頼のきずなを生み、それを強める働きがある。

(1) 自分の気持ちを言葉で表現し伝え合う喜びを味わう。

- ・ したいこと、してほしいことを言葉で表現したり、分からないことを尋ねたりする。
- ・ 生活の中で必要な言葉が分かり使う
- ・ 親しみをもって日常のあいさつをする。

\*考える・知る

ものごとについて、筋道を立てて考えたり、正しく理解するために言葉はなくてはならないものですし、心の内外の事に関し、人間らしく思考し、行動することができる。

(2) 人の言葉や話などをよく聞き自分の考えたことを話そうとする。

- ・ 先生や友達の言葉や話に興味や関心を持ち、親しみをもって聞いたり話したりする。
- ・ したこと・見たこと、聞いたこと、感じたことなどを自分なりに言葉で表現する。
- ・ 人の話を注意して聞き、相手に分かるように話す。

\*思い浮かべる・新たに創り出す

自由に、いろいろなことに思いを広げ、新しいものを生み出していくために、言葉の果たす役割は大きい。言葉があってこそ、情操豊かな想像の世界を体験し、人間としての生活を高める想像の活動ができるものとも言える。

(3) 日常生活に必要な言葉が分かるようになるとともに、絵本や物語などに親しみ、想像力を豊かにする。

- ・ いろいろな体験を通してイメージや言葉を豊かにする。
- ・ 生活の中で言葉の楽しさや美しさに気付く。
- ・ 絵本や物語などに親しみ、興味をもって聞き、想像をする楽しさを味わう。
- ・ 日常生活に必要な簡単な標識や文字などに関心持つ。

4 領域「言葉」の具体的な内容

言葉は、乳幼児期に子ども自らの努力によって獲得していくものである。言葉は教えられるのではなく、身近な大人との相互作用で、大人を模倣したり、子ども自らの活動を繰り返しながら獲得していく。そこで教師は子どもの生活を通して、下記のような点に心がけて援助していく。

(1) 言葉による表現を育てる

言葉の獲得のためには、子どもが身近な人に親しみを持って接し、自分の感情や意志などを言葉を使って伝える。そして生活の中で心を動かし、表現したくなるような体験を持つことや、言葉を

交わす喜びを味わい、話したり聞いたりする経験を十分もつことが大切である。

\* 話す力を育てる視点

- ① 子どもがゆったりとした気持ちで話せるようにする。
- ② 教師が受容する気持ちを持つ。
- ③ 教師は子どもの言動をよく観る。
- ④ 子どもから尋ねられたときは答える。  
(応答する)
- ⑤ 個人差への配慮をする(子どもの状態や発達の違い等を配慮する。)
- ⑥ 安心して話すことのできる場を整える。

⑦ 教師の言葉による表現からの影響。(子どもは教師の言動をよく見ている。教師の言動は子どもに影響を与える。)

⑧ 言語環境を豊かにする。(絵本や、紙芝居など、文化財を通して子どもに語りかける)

## (2) 聞く力を育てる

親や教師はまず子供の言葉に耳を傾けることが大切である。聞くという態度はより積極的に聞かなければ理解できない場合がある。外見でいかにも聞いているような格好をしているが、実はなんとなしに聞いているだけでは、分かるということころまでは発展していかないことが多い。

### \* 聞く力を育てる視点

- ① 人の話す言葉に興味関心を持ち、親しみをもって聞く。
- ② 話す人の顔(表情)を見る。
- ③ 集中力を養う。
- ④ 大勢の友達と一緒に聞く。
- ⑤ 教師はよい聞き手となる。
- ⑥ 教師は聞きやすい環境を構成する。
- ⑦ 絵本やお話など言語文化とのかかわりの持てる環境を構成する。

## (3) 考える・想像する力を育てる

子どもは行動しながら話し、しゃべることが多い。しゃべりながら考えていることでもあると言われる。幼児が一人で遊んでいるときでも、しゃべりながら遊んでいる場合が多い。しゃべっている言葉を記録してみると、幼児の思考過程が分かる。教師は子どもの行動を通して、子どもが何を考えているのかということを読みとることが大切である。

### \* 考える力を育てる視点

- ① 子どもの考えを尊重する。
- ② 子どもの行動を見守る。
- ③ 教師が受容する心を持つ。
- ④ 環境を整える。(考えたり、思考を深める

ために必要と思われるものを用意する。)

### \* 想像性を育てる視点

- ① 日常生活を大切にしていく。
- ② 絵本や物語などに親しみ、興味を持って聞く。
- ③ 生活の中で言葉の楽しさや美しさに気づく。
- ④ いろいろな体験を言葉で伝える。
- ⑤ 教師の言葉の子どもへの影響。(教師の使う言葉は子どもに多かれ少なかれ影響する。日常生活の中での言葉使いを大切にする。)

## 5 幼児理解

幼児理解は保育の出発点である。目の前にいる一人一人の幼児と直接触れ合いながら、幼児の言動や表情からその幼児のよさや可能性、発達する姿、心の動きなどを受け止めて理解する。

### (1) 幼児理解のための教師の姿勢

- ① 幼児との温かい関係を育てる。

教師との温かい信頼関係の中でこそ、幼児は伸び伸びと自己を発することが出来る。

- ② 相手の立場にたって受け止める。

その時の様々な状況を考え合わせて、言動を相手の立場で受け止める。

- ③ 内面を理解する。

生活の様々な場面を表現しているサインを丁寧に受け止めていくことによって、幼児の内面に触れることができる。

- ④ 長い目で見る。

幼児の持ち味や生活の変化は、教師が幼児と様々な場面で触れ合いを重ねる中で、徐々に理解されていくのであせらず、決めつけずに、一人一人への関心を持ち続けることが大切である。

### (2) 幼児理解の具体的な方法

- ① 触れ合いを通して

○ 心に届く触れ合いをする。

○ 気持ちを受け止める。

- 触れ合いを楽しむ。
- つかず離れずに接する。
- ② 記録からの読みとり
  - 記録の工夫
    - ・自分で記入しやすい方法・様式で記録を残す習慣をつける。
  - 記録から何を読みとるか
    - ・個々の幼児について生活の変化を見る。
    - ・幼児の姿を生みだした状況を捉える。
    - ・教師自身の姿を読みとる。
- ③ 多くの目で見る
 

幼児の姿をより深く捉えるには多くの目で見たとことを重ね合わせる必要がある。
- 事例研究の場で
  - ・園内研修を大切に教師全員がお互い励まし合いながら幼児を見る目を高めていく。
- 多くの保育に触れる
  - ・様々な保育の中に見られた幼児の姿を通して、幼児に対する見方を広げていく。
- ④ 家庭からの情報
  - 信頼関係をきずく。
    - ・幼稚園と家庭は連続した生活の場として機能している。家庭での様々な生活の姿は、幼稚園での生活に反映される。
  - 幼児の見える様々な面を受け入れる。
    - ・教師の前で示す姿だけにとらわれず、家庭から知らされた姿のみにこだわったりしないでいろいろな場で見せる多様な姿を受け入れる。
  - 情報交換のための方法を工夫する。
    - ・幼稚園と家庭が幼児の育ちをよりよい方向に促すために、本音で話し合える場を作り出す様々な工夫が必要である。

## 6 環境構成

「環境は幼児をとりまくすべてである」という考え方に立って、幼児が主体性を十分に発揮しながら、

具体的なねらいに向かって必要な体験をしていけるように構成していくことが大事である。「幼児をとりまくすべてとは、遊具、用具や物、他の幼児、教師、身のまわりに起こる事象、時間空間、それらがかもし出す雰囲気などさまざまな要素すべてである。

特に人的環境としての教師は、幼児の行動の仕方や考え方のモデルとなるなど教師自身の言動や姿勢は環境として大事な役割を担っていることに留意する必要がある。

そのような考え方にたって、具体的な環境の構成を考える視点として以下の事項があげられる。

### (1) 環境構成の視点

- ① 具体的な内容に適していること。
- ② 発達の時期に即していること。
- ③ 興味や要求に応じていること。
- ④ 生活の流れに応じていること。

また環境は一度に構成したら変えないという固定的なものではなく、「幼児の生活する姿や発想を大切に、常に適切なものとなるように、展開する活動に応じて幼児が必要な体験を重ねていけるように常に再構成していくことが大切である。

### (2) 環境構成するための配慮や工夫

- ① 子どもの興味関心のあるもの、遊びたくなるような環境づくりをする。
- ② 具体的、直接的に体験できる環境づくりをする。
- ③ くり返しを楽しむという幼児の特性があるので、くり返して遊べる場を工夫する。
- ④ 子どもは感動することで、やる意欲を見つけていくので美しいもの、感動できるものを準備する。
- ⑤ 教師が環境を全部整えるのではなく、幼児が気づいたり、考えたりできる余地をつくる。
- ⑥ 個人差に応じた適度の抵抗や困難のある遊びを考える。
- ⑦ 子どもが主体性を発揮できるように、教師と子供が一緒に環境を創っていくようにする。



7 言葉の年間指導計画案

幼稚園教育要領「言葉」に基づいて、ねらい、指導内容を明確にし、幼児の主な活動、環境構成の工夫と教師の援助を幼児の発達に即して具体化し配列する。

(----- 重点的指導 ----- わりあい軽く)

学期	1期(4月~5月)	2期(6月~7月)	3期(9月~10月)	4期(11月~12月)	5期(1月~3月)
幼児の姿 (発達内容)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○親しみをもって微笑む子教師の声かけを待っている子、積極的に話かける子など個人差がある。</li> <li>○教師の話をしているが、その内容は十分理解しているとはいえない。</li> <li>○絵本を喜んで見る子は多いが、絵を見て楽しむ程度で、長くは続かない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○大勢で話を聞くことに慣れてきたが興味のうすい内容の場合はおしゃべりしたり聞かない子どももいる。</li> <li>○経験したことを断片的に話す子が多い。自分の思いがうまく言えずトラブルも起こりやすい。</li> <li>○クラスの友達やほかの先生の名前もしだいに覚えるようになる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○夏休みの後は話題が豊かになり進んで話す子が多い。</li> <li>○友達と一緒に身近なできごとの話を積極的に聞こうとする。</li> <li>○グループや学級全体への指示がわかって行動する。</li> <li>○すすんであいさつのできる子が多くなる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○大勢の前で話すことがよく出来るようになるが、中には緊張して声が小さくなり教師の助言を必要とする子もいる。</li> <li>○友達の話も積極的に聞けるようになる。</li> <li>○紙芝居、人形劇などを見た後おもしろかったことを再現して遊ぶことを好む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ある程度経験したことや自分の思っていることをはっきり話せるようになる。よい態度で話すことが出来る。</li> <li>○大勢で話を聞くことに慣れ、注意の持続時間も長くなっている。</li> <li>○劇的な活動など場に応じた言葉を考え友達とやりとりが出来るようになる。</li> </ul>
ねらい	指 導 内 容				
え合う喜びを味わう (1) 自分の気持ちを言葉で表現し伝えようとする	(6) 親しみをもって日常のあいさつをする。	(3) したいこと、してほしいことを言葉で表現したり、分からないことを尋ねたりする。			
聞き自分の考えたことを話そうとする (2) 人の言葉や話などをよく聞き自分の考えたことを話そうとする	(1) 先生や友達の言葉や話に興味や感心を持ち、親しみをもって聞いたり話したりする。	(2) したこと、見たこと、聞いたこと感じたことなどを自分なりに言葉で表現する。	(4) 人の話を注意して聞き、相手に分かるようにする。		
日常の生活に必要な言葉が分かるようにすることも絵本や物語などに親しみ想像力を豊かにする (3) 日常の生活に必要な言葉が分かるようにすることも絵本や物語などに親しみ想像力を豊かにする	(9) 絵本や物語などに親しみ、興味をもって聞き、想像する楽しさを味わう。		(7) 生活の中で言葉の楽しさや美しさに気付く。		(8) いろいろな体験を通してイメージや言葉を豊かにする。
幼児の主な活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入園式に参加し話を聞く。</li> <li>・園内の施設や遊具等を見ながらその使い方について話を聞く。</li> <li>・先生や友達に挨拶をする。</li> <li>・園のきまりについて話を聞く。</li> <li>・好きな絵本を見る。</li> <li>・紙芝居を見る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園生活において場に応じた挨拶のしかたを知る。</li> <li>・簡単な指図がわかり行動する。</li> <li>・話す人の顔をしながら話を聞く。</li> <li>・先生や友達の名前を覚えて話しかける。</li> <li>・簡単なことばあそびをする。</li> <li>・友達と一緒に絵本を見る。</li> <li>・絵本や物語りを見たり聞いたりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進んであいさつをする。</li> <li>・学級での話し合い活動で適切なあいさつをする。「始めます」「終わります」「お願いします」</li> <li>・いろいろな行事の計画などについて話を聞く。</li> <li>・園からの連絡をお家の人の話す。</li> <li>・伝言遊びをする。</li> <li>・人形劇を見たり、お話を聞いたりする。</li> <li>・指人形やペープサートを使って遊ぶ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ごっこ遊びをする中で、社会生活に必要な言葉を知り使うことが出来る。「ごめんください」「いらっしやいませ」「ありがとうございます」</li> <li>・声の大きさや発音に気をつけて相手にわかるように話す。</li> <li>・友達の話をよく聞き自分の考えを言う。</li> <li>・見たこと聞いたことを紙芝居やペープサートなどで表現する。</li> <li>・お遊戯会をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達の意見も認めて自分の意見もはっきり言う。</li> <li>・相手に分かるように筋道を立てて話す。(いつ、どこで、誰がどうした)</li> <li>・遊びの中で文字を読んだり書いたりする。(すごろく、かるた、郵便ごっこ等)</li> <li>・自分で話をつくってみんなの前で発表する。</li> </ul>
環境構成の工夫と教師の援助	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの知っている曲を流し室内を楽しい雰囲気にして子ども達の緊張を取り除くようにする。</li> <li>・ままごとコーナーや絵本コーナーのテーブルやイスなど、カバーをかけて家庭的な雰囲気をつくる。</li> <li>・ロッカーや靴箱等にも個々の目印をつけて、わかりやすいようにする。</li> <li>・一人一人に声をかけながら、親しみをもって迎える。</li> <li>・紙芝居を見せたり、絵本の読み聞かせをしながら絵本に親しませるとともに、子どもが自由に好きな絵本を選んでみるようにする。</li> <li>・子どもにとってはすべて新しい環境なので、一緒に遊んだり言葉をかけたり、できるだけ教師は身体接触をして信頼関係を築く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育室はきれいに子ども達が気持ちよく遊べるようにする。</li> <li>・ままごと道具は、種類別に表示し子ども達が遊びやすく片づけやすいようにする。</li> <li>・小動物に興味関心を持ち関わる事ができるように凶器、虫めがね、えさ等身近に置いておく。</li> <li>・子ども達が自由に音楽を聞いたり、お話を聞くことができるようカセットテープの操作がしやすいように印をつける。</li> <li>・楽しく遊ぶためにきまりがあることを知らせ、それを気付かせるような話や遊びをする。</li> <li>・子どもの表現を認めそれぞれすばらしいことを知らせ自信を持たせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一学期を思い出するような環境構成をし、登園してすぐに取り組めるようにしておく。</li> <li>・子どもの興味関心のあるもの、遊びたくなるような環境づくりをする。</li> <li>・指人形や、ペープサートなどを使って遊べるように舞台を設置しておく。</li> <li>・子どもがのびのびと発表出来るように、子どもの発見、工夫、努力などを温かく受け止め、共感する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもが主体性を発揮出来るように、教師と子どもと一緒に環境を創っていくようにする。</li> <li>・お遊戯会やお楽しみ会等、子どもが自主的、意欲的に取り組みできるように関連のある絵本や音楽等を身近に置き、自分たちで取り出して使えるようにする。</li> <li>・子どもの考えや思いを受け止めその子の持っているよきさをだせるような雰囲気をつくる。</li> <li>・子どもの表現を認めるような言葉を積極的にかけることで、子どもの表現意欲を促す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一人が目標をもって自分の力を精一杯だして遊べる活動を多く取り入れる。</li> <li>・幼児の生活する姿や発想を大切に、展開する活動に応じて環境の再構成をする。</li> <li>・友達とのかかわりの中で共通の目的を持たせ、友達と一緒に協力しながら活動を豊かに展開出来るように子どもの持っている力を信頼し必要に応じて援助する。</li> </ul>

## V 仮説検証の保育実践

### 1 活動名

- 環境構成の工夫による豊かな表現活動

### 2 題材名

- 劇場ごっこ

### 3 ねらい

- グループの友達と課題に向かってお互い認め合いつつ活動を進める。
- 遊びに必要な物を計画したり作ったりする。
- 劇場ごっこを通して友達と一緒に表現する楽しさを味わう。

### 4 設定理由

6～7月にかけてお母さん達に指人形（三びきのこぶた、あかずきんちゃん、おおかみと七ひきのこやぎ）を作ってもらった。人形をクラスに置き、子ども達が自由に使える様にした。オルガンを舞台にして、二人、三人と気の合う友達と人形を使って遊んでいる。人形を使って「せんせいこんにちは」と話しかけてくる子もいる。「あら、あかずきんちゃんこんにちは、どちらへお出かけですか」等と子ども達会話を楽しんだりする。又男子の子の中には、おおかみの人形をもって、友達をおいかけ楽しんでいるが、人形を大切に扱うことがあまりじょうずに出来ない。

9月の誕生会では教師の出し物で「おおかみと七ひきのこやぎ」を演じて観せた。子ども達はどの子も目を輝かせて観ている。誕生会が終わると、さっそく女の子達がクラスにおいてある人形を持って遊ぶ様子が見られた。テープを準備しておく、自分で曲を流して人形劇を楽しんでいる。イスにすわってお客さんになりこやかに観ている子もいる。ときどき人形の奪い合いも見られるので、交替して演じるように声かけをする。

そこで、大好きな人形劇遊びを通して、人形を大切に扱い、子ども達の心の触れ合いを育てながら、表現する楽しさをあじわわせ、更に、友達と共通の目的に向かって、協力しながら楽しい劇場ごっこへと発展させていきたい。

### 5 親子対話状況の実態調査

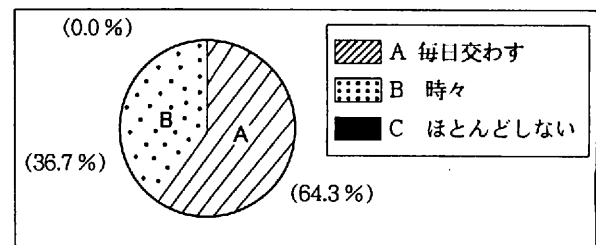
調査目的：家庭における親子の対話状況の把握

調査対象：5歳児 ひまわり組 30人（父母）

調査月日：平成7年12月11日

#### 質問(1)

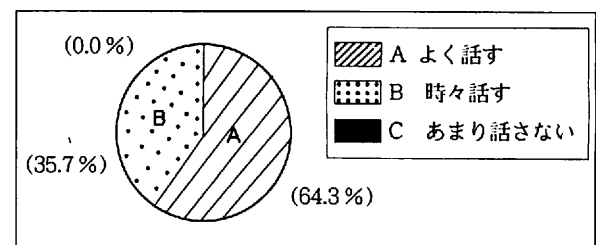
ご家庭でお子さんとあいさつを交わしていますか？



#### ＜考察と対策＞

- あいさつをすることで親しみや信頼関係を育てていくことが出来ると思われるので、あいさつを進んで行いその定着を図っていく。

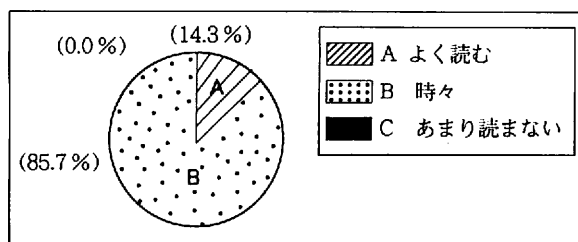
#### 質問(2) お子さんは幼稚園での出来事を話しますか？



#### ＜考察と対策＞

- よく話す子のほとんどがいろいろな活動に意欲的に取り組み、友達と一緒に楽しんでいる子が多い。
- 時々話す項目は35.7%で、特に問題のない子もいるが、中には自己を発揮し目的を持って遊べない子や自己中心的で友達とのトラブルの多い子も見られる。そこで園生活を充実させ、友達関係をそだてるとともに、家庭においては親が進んで園の様子を聞きそれを話題にして親子の触れ合いをより高めてもらう。

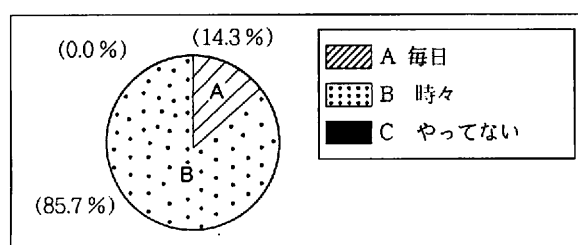
質問(3) お家で絵本をよく読んでいますか？



《考察と対策》

- 絵本をよく読む子を見てみると、話しをしっかりと聞いている子に多いことがわかった。読むこと聞くことの関連性があることがわかる。
- 家では絵本をよく読む子が少ない。従って園において絵本の読み聞かせをすることで絵本の楽しさを味わわせたい。

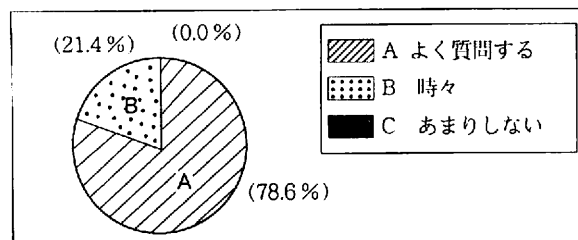
質問(4) 絵本の読み聞かせをしていますか？



《考察と対策》

- 毎日絵本の読み聞かせをしている14.3%の子のほとんどが母親が家にいて読み聞かせをしていることがわかった。
- 時々読むは85.7%を占めているが、これは園の絵本貸出も影響があると思う。少なくとも週一回は読み聞かせをしている。
- あまり読まない項目に一人いるが、この幼児は自分の思いが集団の中でなかなか話せないようで特に関わりを必要とすることが多い。そこでお母さんに絵本の読み聞かせをもらい、共通の話題がもてるように働きかけ表現力を高めていけるよう協力してもらう。

質問(5) お子さんはよく質問しますか？



《考察と対策》

- よく質問をしている子は親子の対話がとれていると思われる。
- 質問を時々する子は、21.4%で、中には人の話しをあまり聞こうとしない、理解力が少々乏しい子がいる。その外、親が忙しいために親子の関わりが薄く、触れ合う機会が少ないのではないかとと思われる。

## 考 察

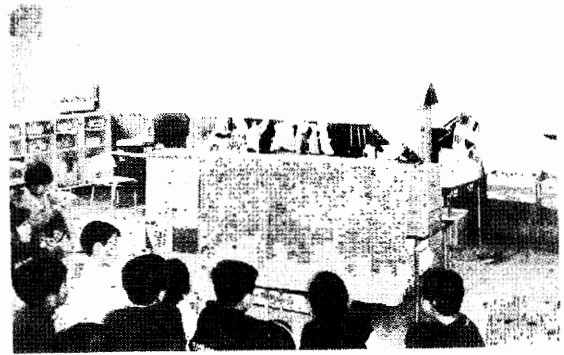
以上家庭における親子の対話の状態をみると、幼稚園の出来事を話したり、わからないことを聞いたりして、親子の触れ合いはだいたいとれていると思われる。しかし絵本とのかかわりにおいては、絵本に親しませるような働きかけが十分でない。絵本は幼児に感動を呼び起こし、話す・聞くことに関連があるので絵本に親しませる働きかけが必要である。

## 6 室内環境の工夫

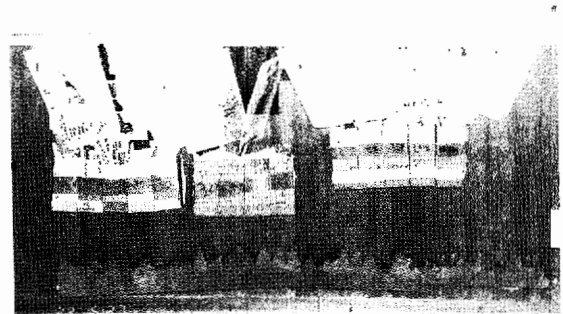
### (1) 人形劇コーナー

友達と一緒に人形やペープサートを使って表現を楽しむことが出来るようにカセットテープ、人形、ペープサート、舞台等人形劇を演じたいくなるように子ども達の考えも取り入れながら環境構成をする。

また取り出しやすく、片づけやすいようにする。



(にんぎょうげきコーナー)



(ペープサートのおへや)

### (2) 絵本コーナー

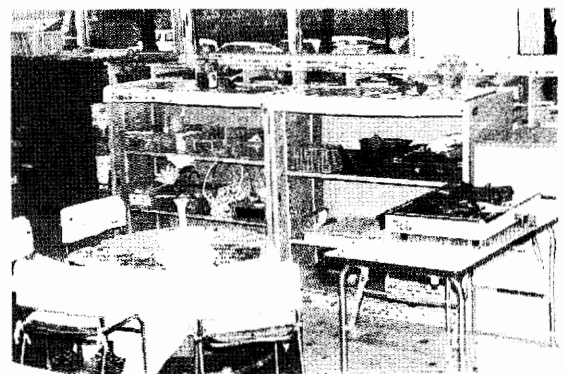
子どもは、絵本を見たり読んだりして現実では味わえない想像の世界を豊かに広げていく。そういったすばらしい絵本との出会いの場はことばの獲得に欠かせない環境の一つである。子ども達にかかわらせたい絵本を置き、落ち着いた快い環境となるように花を飾ったり、人形劇遊びに関する絵本などもよくわかるように準備し、本棚の整とんに心がける。



(えほんだいすき)

### (3) ままごとコーナー (ひまわりレストラン)

子ども達は自分の経験をごっこ遊びの中で再構成し、それぞれのイメージで見立てや成りきる楽しさを味わっている。その中で子ども達のつばやきやことばのやりとりも盛んになっていく。このことから、ごっこ遊びが子ども達のことばや、コミュニケーションを育てるためには重要であり、ごっこ遊びが楽しめるような家庭的な雰囲気にする。



(ひまわりレストラン)

7 活動の経過

月日	ねらい	幼児の活動	教師と援助と環境の工夫	評価・反省
平9 10月5日 12月	・指人形に親しむ	・2~3人で音楽をかけて人形劇をやっている。	・子ども達が指人形で楽しく遊べる様にテープ（あかずきんちゃん、おおかみと七ひきのこやぎ、三びきのこぶた）を準備する。	・テープを準備したことにより子ども達が関心をもって遊んでいる。
12月8日 (金)	・友達と一緒にエプロンシアターを観る。	・エプロンシアターを観る。  ・エプロンシアターを演じて友達に見せている。	・子ども達の表現意欲をかりたてるために、教師がエプロンシアターを演じて見せる。 (友達ほしいなおかみくん)  ・子ども達にエプロンシアターで遊んでもいいことを伝え、目につきやすい場所に掛けておく。	・エプロンシアターの楽しさが伝わったようで、子ども達はにこにこしながら観ている。
12月11日 (月)	・「おおかみと七ひきのこやぎ」のお話のイメージを広げて楽しむ。  ・自分の思っていること、考えていることを話す。	・ペープサートを観る。  ・ペープサート作りについて話し合う。 ・自分の作りたいものについて話す。 「三びきのこぶた」 「おおかみと七ひきのこやぎ」 「ともだちほしいおおかみくん」 「あかずきんちゃん」	・「おおかみと七ひきのこやぎ」を、やぎのおかあさんのペープサートを使って教師が話して聞かせる。  ・ペープサートを演じて見せたあと、子ども達に「みんなも作ってみたい？」となげかけみんなで作ることになった。 ・ペープサート作りについて話し合う。 ・どんなものを作りたいか、子ども達の意見を聞く。	・「おおかみと七ひきのこやぎ」のお話のイメージを膨らませて観ている。  ・自分の作りたいものについて考え、話すことが出来ている。
12月12日 (火)	・ペープサート作りを楽しむ。	・みんなで話し合いをして決めた四つのお話の中から自分で作りたいものを決める。 ・四つのグループに別れ話し合いをする。  ・自分のやりたい役を決めペープサートを作る。  ・作ったペープサートで遊ぶ。	・自分の好きなお話しのパープサートを作るよう声をかける。  ・自分で題材を決めたら同じ題材のグループごとに集まりグループの中で更に自分の作りたい役を話し合いによって決めるように促す。  ・ペープサートに必要な材料や用具を準備する。(画用紙、棒、ホッチキス、ガムテープ等)	・自分の好きなお話しを選択し意欲的にペープサート作りをしている。

12月13日(水)	・観劇を楽しみ想像力を高める。	・劇団杉の子の人形劇「雲になったひげじい」を観る。	・劇団「杉の子」の人形劇のポスターを見る。 ・人形劇に期待をもたせる。 ・静かに最後まで観ることを話す。	・人形の動きに喜んだり、びっくりしながら人形劇をたのしんでいる。
12月15日(金)	・劇場ごっこについて思ったことや考えたことを話す。	・劇場ごっこについて話し合う。 ・自分たちの劇団をつくる事に決まる。 ・劇団の名前を考える。	・劇団「杉の子」の人形劇に感動し、さっそく子ども達に劇場ごっこについて提案する。	・劇場ごっこをすることに期待を持って自分の考えを話している。 ・一年生への期待があり一年生劇団に決まる。
平成8年1月8日(月)	・出し物について話し合うことで、劇場ごっこへのイメージを広げる。	・劇場ごっこの出し物について話し合う。 「三びきのこぶた」 「おおかみと七ひきのこやぎ」 「あかずきんちゃん」 「ともだちほしいおおかみくん」	・劇場ごっこでどんな事をしてみせたいか、子ども達の考えを聞く。 ・劇場ごっこが楽しく出来るように環境の再構成を子どもと一緒に考える。 ・舞台の位置をみんなが見やすい場所に移動する。 ・舞台を広くする。 ・人形やペープサートが取りだしやすいようにする。	・自分のやりたいことについて考えたことを、みんなの前で話しをしたり、友達の考えを聞いて自分のやりたいものを決める子もいる。
1月9日(火)	・劇場ごっこを楽しく進めるために、必要な物について考える。 ・イメージを共有しながら劇場ごっこに必要なものを作る。	・劇場ごっこに必要な物を話し合い作る。 *お金(銀行) *キップ *看板 *ポスター *プログラム ・自分たちが演じる劇のポスターを描く。グループで協力して取り組む。	・劇場ごっこにどんな物が必要か子ども達に考えさせる。 ・映画に見にいったときのこと ・市民会館で劇を見たときの先行経験を思い出させながら話し合いをする。	・映画を見に行ったり観劇をした経験のある子が進んで話をしている。だんだん劇場ごっこについてのイメージを膨らませ、部屋の装飾やポスター作りを楽しんでいる。

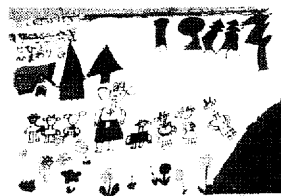
ポ ス タ ー



(あかずきんちゃん)



(三びきのこぶた)



(おおかみと七ひきのこやぎ)

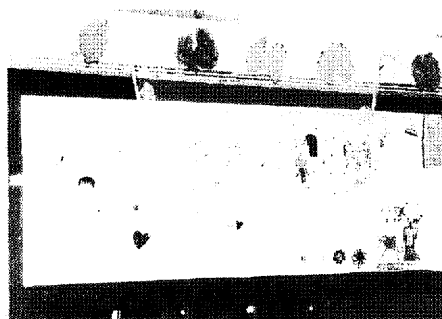


(ともだちほしいおおかみくん)

一年生げきだんの

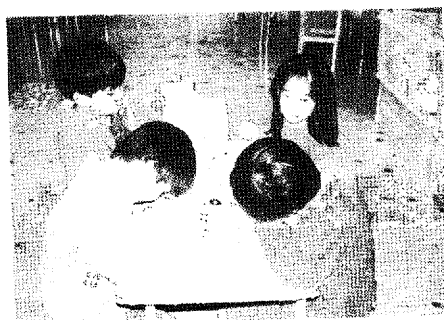
こうえんかいのじゅんびができました。

(看板)



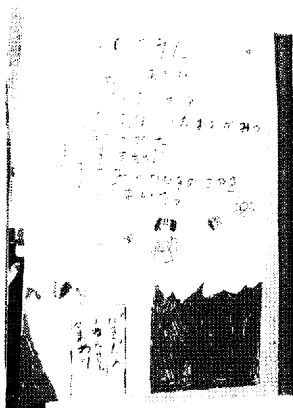
1ねんせいげきだんのかんばんができました。

⑫ プログラム



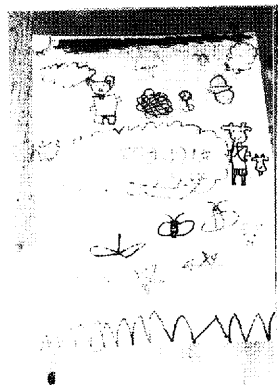
プログラム作りががんばっている。

(プログラム)



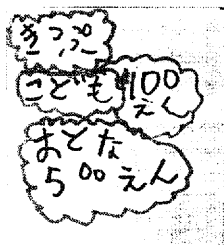
にんぎょうげき  
たのしいよ！みにきてね

(キップうりば)



キップうりばもあるよ。

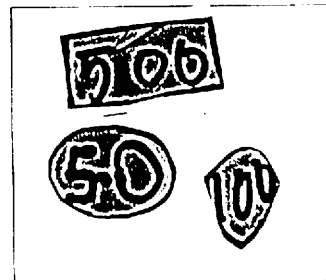
(きっぷ)

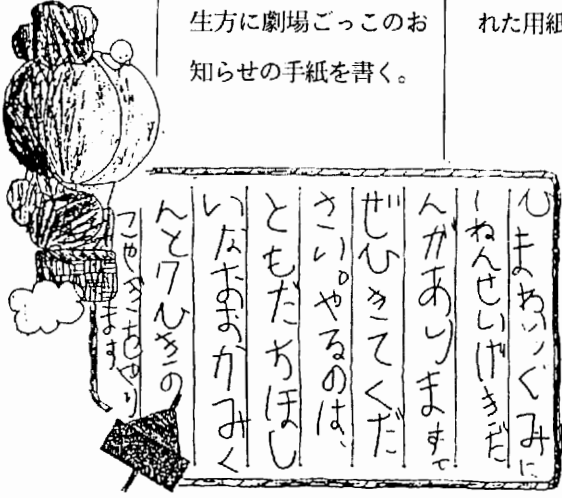


にんぎょうげき  
をみるのにキップ  
がひつようです。

ぎんこうでお  
金をもらって  
ください。

(お金)

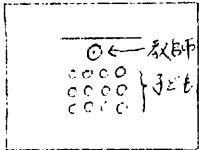
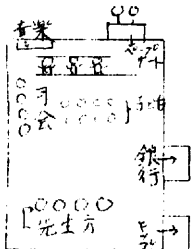


1月10日(水)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・係り活動の内容がわかり友達と協力して頑張る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・劇場ごっこの係について話し合う。 銀行 キップ係 司会 音楽係</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・劇場ごっこが楽しく出来るためどのような係が必要か、また係りはなにをすればよいか、子ども達と考える。</li> <li>・交替で係活動をするには、どんな方法がよいかを考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人形劇のグループと一緒に係り活動することに決まる。</li> </ul>
1月12日(金)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回公演をみんなで楽しみ、協力して進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第一回公演 たんぼぼ組 お父さん、お母さん</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第一回公演にたんぼぼ組と、お父さんお母さんに観てもらうことで、子ども達に表現することの喜びを味わわせたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・たんぼぼ組とお父さん、お母さん方に観てもらったことで、喜んで次の公演への意欲を見せている。</li> </ul>
1月16日(火)	 <ul style="list-style-type: none"> <li>・すみれ組や研究所の先生方に劇場ごっこのお知らせの手紙を書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第二回公演 すみれ組</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手紙が書きたくなるようにイラストをいれた用紙を準備する。</li> <li>・楽しく劇場ごっこが進められるよう見守りながら必要に応じて援助する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第一回公演より人形の動きは豊かになっている。子ども達もだんだんお話のイメージを膨らませながら楽しんでいる。</li> </ul>
1月17日(水)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第3回公演を楽しみに待つ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第3回公演で演じるものについて話し合う。</li> <li>・劇場の雰囲気をつくるために部屋の入り口に花を飾る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・花作りに必要な材料を準備する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・花を作る子飾る子と楽しみながら部屋の飾りつけをしている。</li> </ul>

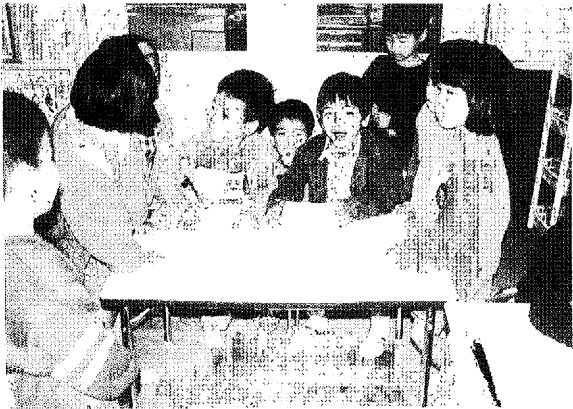


8 公開検証保育指導案（本時）

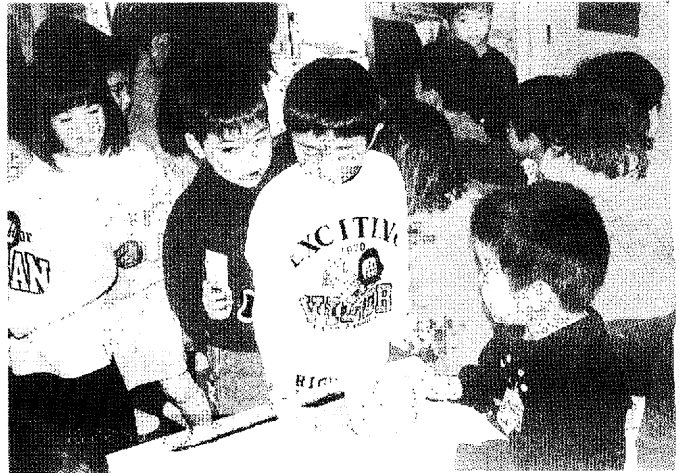
平成8年1月18日（木） ひまわり組 担任 池間すえ子			
在籍	男児16人 女児17人 計33人		
活動	劇場ごっこ		
幼児の姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 劇団杉の子の観劇をきっかけに、自分達の劇団を作り楽しんでいる。</li> <li>○ 子ども達は役割を交替しながら人形劇を楽しみ、お母さん達に見せたい、先生達にも早く見せたいと演じて見せることを楽しみにしている。</li> <li>○ 子ども達は劇場ごっこを進めていく中で、必要なものに気が付いたり雰囲気作りを工夫したり次々アイデアが生まれた。</li> </ul>		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学級の友達と協力して劇場ごっこをしながら、自分なりにイメージを膨らませ人形劇を演じることを楽しむ。</li> <li>○ 演じ手とイメージを共有しながら観る。</li> </ul>		
時間	環境構成の工夫	幼児の活動姿	教師の援助
8:15		<ul style="list-style-type: none"> <li>○登園する <ul style="list-style-type: none"> <li>・あいさつ</li> <li>・出席シールを貼る</li> </ul> </li> <li>・持ち物の始末をする。</li> <li>○朝の会 <ul style="list-style-type: none"> <li>・当番は出席調べをする</li> <li>・今日の活動についての話し合いをする。</li> <li>・動植物の世話をする。</li> </ul> </li> <li>○好きな遊びをする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・戸外遊び <ul style="list-style-type: none"> <li>縄跳び 砂遊び</li> <li>二輪スタータ</li> <li>固定遊具</li> <li>竹馬, サッカー</li> </ul> </li> <li>・室内遊び <ul style="list-style-type: none"> <li>ままごと、絵本</li> <li>折り紙、かるた</li> <li>すごろく</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽しい一日が始められるように教師自身がさわやかな気持ちで一人一人を迎えあいさつする。</li> <li>・丁寧に持ち物の始末をするよう見守る。必要に応じて援助する。</li> <li>・子ども達が出席調べをすることによって休んでいる子に対しての気づかい等、友達に対する思いやりの心を育てる。</li> <li>・教師も一緒に関わりながら、飼育動物や栽培植物との触れ合いを大事にしていたわりの心を育てる。</li> <li>・子ども達が、自己発揮する姿を認めながら十分遊び込めるように援助する。</li> <li>・自分の思いを友達に伝えたり、相手の意見が聞き入れながら遊ぶ事が出来るように、必要に応じて援助する。</li> </ul>
8:30	 <ul style="list-style-type: none"> <li>・絵本コーナー 子ども達に見てもらいたい本は目につきやすいようにする。</li> <li>・お正月遊びコーナー</li> </ul>		

	<p>こま、羽子板、かるた、すごろく等子ども達が自分で取り出して遊べるように表示して、棚に並べて置く。</p>	<p>こま回し 人形劇</p>	
9:20		○片づけ	<p>「続きは、明日やろうね。」と明日の準備をする気持ちで</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・片づけが出来るようにする。</li> </ul>
9:30	 <ul style="list-style-type: none"> <li>・人形劇コーナー 人形劇の舞台を広くして子ども達が演じやすいようにする。</li> <li>・自然に演じたいくなるように舞台にカバーをかけたり、音楽機材等身近に置いておく。</li> </ul>	<p>○話し合い</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人形劇遊びのグループで集合する。</li> <li>・今日の劇場ごっこの進め方、役割の確認をする。</li> <li>・観るときの約束や演じるときの約束を話し合う。</li> </ul> <p>○第3回劇場ごっこ プログラム</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・はじめのあいさつ</li> <li>・はんかち遊び ペープサード (ともだちほしいおおかみくん)</li> <li>・人形劇 (おおかみと七ひきのこやき)</li> <li>・おわりのことば</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今日の劇場ごっこについて落ち着いて話し合いが出来るようにする。</li> <li>・友達が演じている時は、自分勝手な行動をせず静かに観る事を約束する。</li> <li>・音楽をよく聴きながら楽しく演じて見せるように話す。</li> <li>・自分の役割をしっかり把握し友達と協力して劇場ごっこが楽しく出来るようにする。</li> <li>・準備は、できるだけ子ども達で出来るように見守り促す。</li> <li>・キップ係、音楽係、司会、演じ手等役割がわかるよう事前に話し合いをしておく。</li> <li>・劇場ごっぴがみんなで楽しめるように役割を分担しておく。</li> <li>・おしゃべりやいたずらが見られ集中してない場合は手遊びを入れながら最後まで劇場ごっこが楽しめるようにする。</li> </ul>
10:05	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人形やペープサートが取り出しやすいように舞台の後ろに置場所を設置する。</li> </ul>	○話し合い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今日の劇場ごっこについて楽しかったことや、気がついたことよかったこと、等子どもと一緒に振り返り、次の劇場ごっこにつなげる</li> </ul>
評価の観点	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 友達と一緒に協力して人形やペープサートを使って表現を楽しむことが出来たか。</li> <li>○ 友達が演じているとき、最後まで演じ手とイメージを共有しながら観ることができたか。</li> <li>○ 表現活動を楽しむための環境の工夫がなされていたか。</li> </ul>		

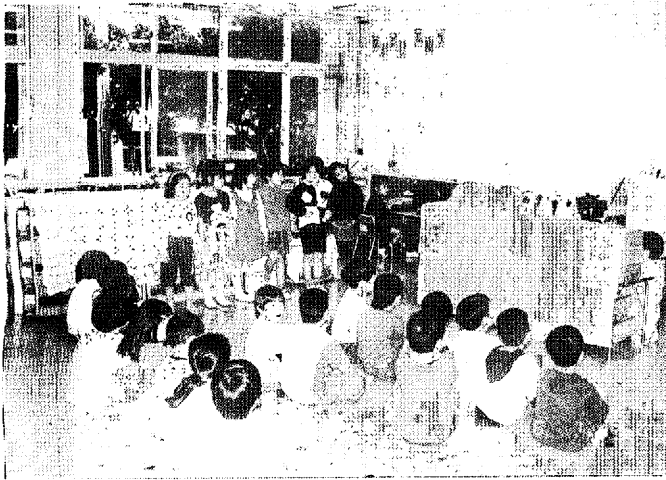
◎げきじょうごっこへどうぞ！



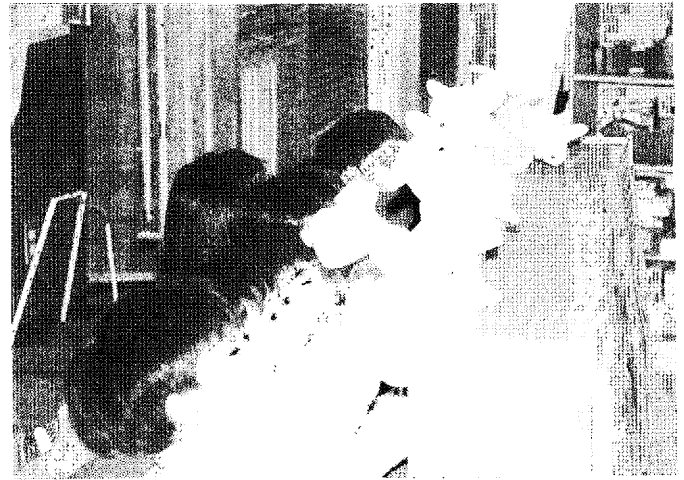
こちらはぎんこうです。



キップください  
はい こども100えんですよ。



にんぎょうげきののはじまりはじまり  
みなさんしずかにみてください。



にんぎょうげきってたのしいね



おもしろいな…



げきじょうごっこ  
たのしかったです。

## 9 公開検証保育の評価

### (1) 参加者の評価

- ① 考える、創造する、表現する、思いやる場面が劇場ごっこを通して育っていると思われる。
- ② 子ども達が安心して劇場ごっこを楽しんでいる。
- ③ 好きな人形劇を、友達と楽しく演じていることはよかった。
- ④ 子ども達は一緒に歌を歌ったりしながら人形劇を楽しんで観ている。
- ⑤ 子ども達の話し合い活動の場面で「ペープサートをバンバンたたかない方がよい」といった人形を大切に思いやりの心が見られた。
- ⑥ ハンカチ遊びで「ハンカチうさぎ」を演じているが、はじめて見る人にとってはよくわからない部分もあった。しかし子ども達は見えない部分を自分たちの頭の中でイメージしながら演じ手と一緒に気持ちで見ていると思われる。
- ⑦ 人形劇をより効果的に演じるために、バックの工夫をした方がよい。
- ⑧ 話し合い活動で「気がついたことはないですか」との教師の言葉かけは子ども達の注意につながるので、よかったことに目を向けるような言葉かけでまず認めてあげたほうがよい。
- ⑨ 表現しようとする心情を大切に、受容する心を持ち、教師がすぐに応えるのではなく、子どもにじっくりと考えさせる言葉かけの工夫をすることが大切と思う。

### (2) 子どもの声

- ① おばあさんのところに、あかずきんちゃんがおみまいに行くと行って、ぶどうとおかしをカゴに入れてわたすところがおもしろかった。
- ② 人形劇を観たことと、ジンギスカンをやったことと、司会をやったことが楽しかった。
- ③ 大ぶたと中ぶたの家がふきとばされたところがおもしろかった。
- ④ おおかみの役をしてあかずきんちゃんをガブ

ッと食べるところが楽しかった。

- ⑤ おおかみになってへんな気持ちだった。出るのが、少なかったのもっとやりたかった。
- ⑥ こやぎの人形の手を動かしたり、頭を動かしたりして楽しかった。
- ⑦ 小ぶたをやったのが楽しかった。小ぶたはお家がじょうぶだからおおかみに食べられないので嬉しかった。
- ⑧ 「ともだちほしいなおおかみくん」できつねの人形を動かしたのが楽しかった。
- ⑨ 中ぶたをやっている気持ちだった。体がいい気持ち。
- ⑩ 「三びきのこぶた」のおおかみを、のぶひとがやっているのが楽しかった。あっちこっち動かしていたので笑った。こぶたを食べるところがよかった。
- ⑪ 「ともだちほしいおおかみくん」を観たのが楽しかった。
- ⑫ 司会をやるととても楽しかった。ちょっと恥ずかしかった。

## VII 研究の成果と今後の課題

### 1 研究の成果

- (1) 人形が身近にあり、更に劇団杉の子の人形劇を観て感動したことで劇場ごっこに関心を持ち、みんなで取り組む事が出来た。
- (2) 子ども達は公演会をする共通の目的があったことで、劇場ごっこに意欲的に取り組み協力して進める事が出来た。課題に取り組む積極的態度が育ってきている。
- (3) 劇場ごっこに必要な物を作ったり、子ども達が意見を出し合いグループで相談しながら役割を分担し、キップ係り、音楽係、司会、演じ手等、多様な体験ができた。
- (4) 劇場の雰囲気づくりや演じやすい環境の工夫など、子ども達から舞台の配置や部屋の飾りなどア

アイデアがだされ、一緒に環境創りが出来た。イメージを膨らませながら環境の工夫をしていると思われる。

- (5) 子どもと一緒に人形劇を楽しみ、上手に出来た場面を認め、楽しかったことを伝えると、先生や友達が喜んでくれていることに満足し、ますます自信をもって人形劇を演じて見せている。意欲的に表現活動に取り組むようになっていく。
- (6) 人形劇を演じて友達や先生から認められたことで、気持ちが安定し信頼関係が生まれ相手のよさを見つかったり、相手の話を聞こうとする気持ちが見られる。又、他の活動にも関心を示し積極的に取り組もうとする態度にもつながっている。主体的に取り組む姿勢が高まってきている。
- (7) 劇場ごっこを通して人形をきちんと片づけたり、人形を大切に扱うようになっていく。思いやりの気持ちが育ってきている。
- (8) 「音楽なしで人形劇やってみたら」と声をかけると「せんせいもうちょっとなれてきたらやろうね」と話している。音楽に合わせて演じることを重ねながら音楽の中の言葉を模倣して獲得している。このことから、言葉による表現力が高まっていくと思われる。
- (9) 話したり聞いたりする経験を十分に持ったことで、自分の考えを話し友達や先生の話の聞けるようになった子がふえている。人の話を聞く態度が育ってきていると思われる。
- (10) 室内環境の工夫をしたことで遊びに深まりが見られるようになった。レストランのお客さんに人形劇をみせるなど、自分たちで遊びを考え、みんなが楽しめるように工夫している。子ども同士の交流も広がり積極的に環境に働きかけ楽しんでいくことが確認できた。

## 2 今後の課題

- (1) 話す・聞く力を育てることは、子ども達の日常の小さい表しの一つ一つを大切に、あたたかく受容したり、共感することである。教師は幼児理

解を深め、小さい表しを受容し共感出来るような感受性を磨いていきたい。

- (2) 表現力を豊かにするようなことばあそびの年間計画を作成していきたい。

おわりに

学習の基本となる、話す・聞く力を育てることは、毎年大きな課題でした。

幼児期における言葉の教育の大切さを認識し、改めて自分の保育を振り返りながら研究に取り組むことが出来たことは貴重な体験でした。今後、更に教師としてよりよい人的環境を子ども達に与えて行けるよう日々努力を重ねていきたいと思っております。

研究期間直接指導して下さった浦添市教育委員会の宮城久子指導主事、研究所の田中一郎所長、与那覇武係長、コンピュータの使い方を懇切丁寧に指導して下さった當間指導主事、与那城太一主事、宮城陸代図書館司書、励まし、支えて下さった研究員の皆様に深く感謝申し上げます。また研究する機会を与えて下さった本園の園長仲里金助先生、副園長の金城文子先生、職員の皆様、その他多くの方々にご指導していただきました。厚くお礼申し上げます。

## 《参考文献・引用文献》

- |                       |                        |
|-----------------------|------------------------|
| ・文部省                  | 幼稚園教育指導書 補助版           |
| ・文部省                  | 幼稚園教育指導資料第3集           |
| ・村井潤一編集               | 「言葉」 ひかりのくに            |
| ・岡田明編                 | 子どもと保育 萌文社             |
| ・岸井勇雄、小林龍雄、高城義太郎、朽尾勲編 | 「言葉」 チャイルド社            |
| ・黒川健一編著               | 「豊かな表しに向けて—表現— フレーベル   |
| ・中川正文、村石昭三、高杉自子       | 「幼児教育法シリーズ 言語実技編」 東京書籍 |
| ・渡具知スミ子               | 研究集録 具志川市立教育研究所        |
| ・野原順子                 | 研究集録 (第4号) 浦添市立教育研究所   |